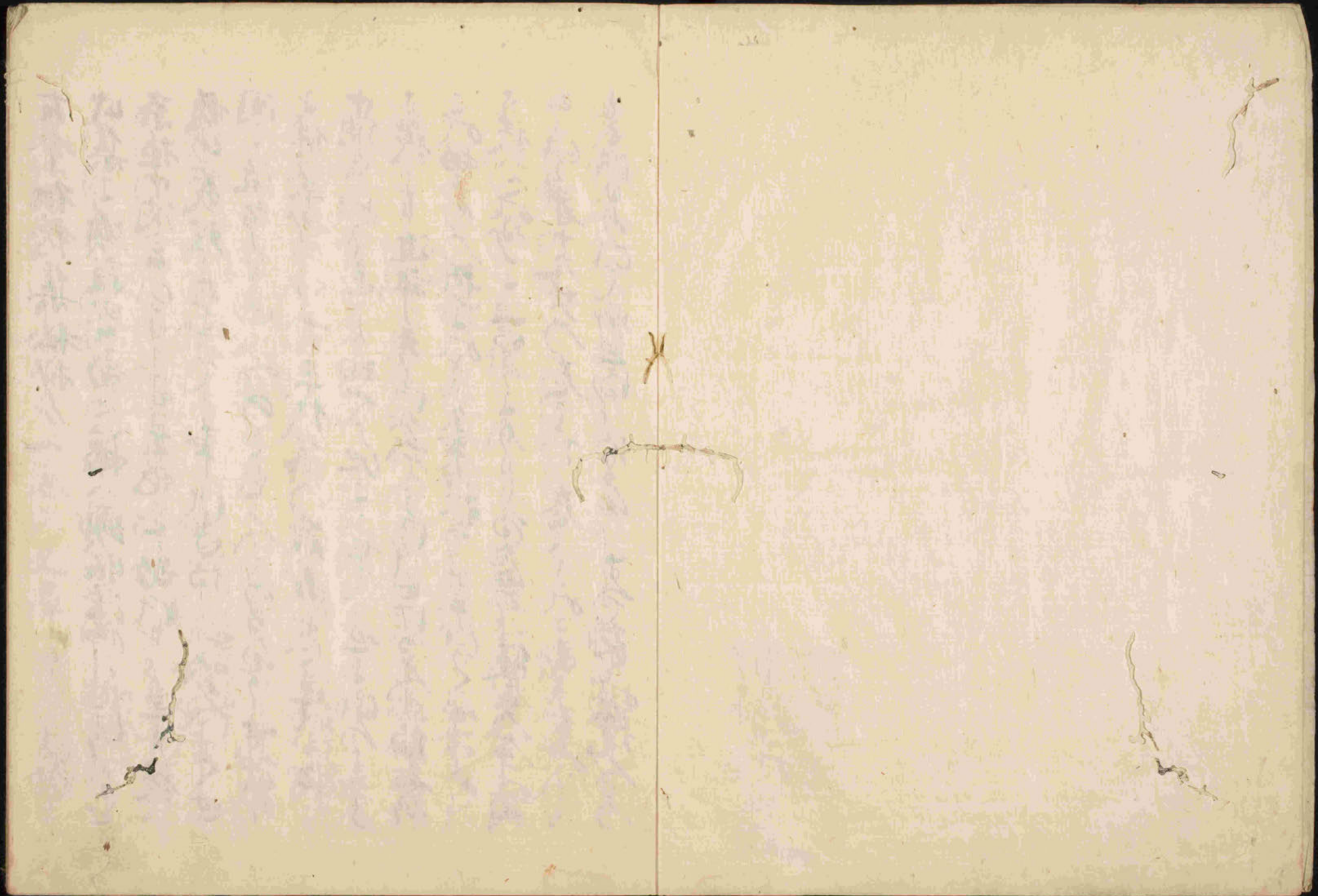


古今和歌集秘抄

1
108
110

侍從部致





古今和歌集秘抄



此集、顯註密勅と稱、顯昭法師の撰と
 京極中納言いひ、ふ是れと勅にせしむるに
 歌の義理よとまて、事にはゆるり又久しく世
 間、流布とせしむるのこともあらずすは
 僻素抄とよみ、三代集の難義とて事、か
 中納言のいせむるゆゑ、世にいらま
 近年、まはらるる所、ゆるり今もゆるり
 此抄の歌、よき事、たの事、びくゆき、
 後、此抄よ、いひゆるり、ゆるり、假名を、
 めいし、才十九、女乃巻、より、巻、よ、ま、事、
 といひ、ゆるり、ゆるり、ゆるり、ゆるり、
 といひ、ゆるり、ゆるり、ゆるり、ゆるり、

受悟、是よ、い、い、い、い、い、い、い、い、
 定家、この院と、い、い、い、い、い、い、
 した、い、い、い、い、い、い、い、い、
 よ、い、い、い、い、い、い、い、い、
 ゆるり、す、次、よ、い、い、い、い、い、
 妙の、風骨と、え、い、い、い、い、い、
 進、て、新、石、今、集、の、巻、頭、よ、い、い、
 こと、と、す、い、い、い、い、い、い、
 定家、この、家、僕、に、い、い、い、い、
 あり、け、り、や、幽、益、相、應、の、時、節、
 とい、い、い、い、い、い、い、い、い、
 應、仁、の、所、い、い、い、い、い、い、

けり事いふ念いふりなりとて進もいぬいえ
悟の事いふい事法いふりゆらゆら竹ちり
きせとまりて定家ののみ弦中上非傳の
況と扱一のりとも傳りも事いふいゆる
いりりい細いりり事い次とていりりい
とゆり

くまとうたひ人の公けいぬとて

と上声いままもな
手声いし

真若序云夫和歌者託其根於心也發其華於氣
林者也公とがけも根いぬれども花いぬれども
和歌のこもれやまこもれやま

世の中いある人事いこいけいぬとて

真若序云人く在世不能はるこいぬとて

三けきい三けいとよ角之いぬとて

およこくういぬと水いぬとて

真若序云春鶯轉於花中秋蟬吟於樹上唯
此曲節皆發奇詠といりり建い春と秋い詠
してゆりい序い春のいぬとて虫いぬとて
いぬりい公いぬとて

「おかしき〜」なるおかしき歌と「愛」のつらさ

「おかしき〜」ける物の公をばし〜公の建するソラ
おのりの哀樂の公と哀樂のいよ〜の事と歌
と人倫し〜の事すの〜のあやとさ〜しりし
とあすまらんら〜のあ〜心動於中言形於外
と詩とつらとも詩の序よ〜の歌〜よ〜
ま〜のい〜言と〜して夕塵と人なま〜しての〜す
哀樂の公と聲よ〜の事人畜か〜の歌な〜し
しりして〜し〜ける物みな歌と〜の〜し
或抄の〜よ〜の〜か〜の〜し〜
める後とい〜の調〜り用〜す〜の〜せ
句の〜の〜の〜

ち〜い〜入〜てのめはら〜し〜め〜ん
かに疎と〜の〜を〜ん

け一匠の歌のほと〜りし〜詩の序〜動天感
鬼神和夫婦姪人倫美近於詩と〜りけ序〜
公と〜し〜い藍〜りし〜い〜り天〜
〜ん〜く〜の〜入〜い〜ん〜
〜の〜一首のほ〜り〜
〜目〜人〜對〜し〜事〜
〜目〜物〜感〜
事〜一首のほ〜り〜
〜し〜し〜し〜
〜し〜し〜し〜
〜し〜し〜し〜

此の隆亨の代に集い下二のどき事かふるも
このく天竺のいけしきまりるるあふりふて
けはのあのがうりとしつり天竺ありし地後よ
まりこれと同輝とありくが後人か中よす
これと三才とよ三才のつめい次第とよそ
城の同時よ三よこまより人よすま歌とよ
とこよしてこれと同輝のせうり歌の道あり
の後のいさけら下とめ疎と疎ありい
事といゆる事

古今序のほ四條大納言公任のいさけら
貫く序とりしきんりつり事とのまなふ
一茶院のい時と納言の上ととる扱ひい

うりて二後とのい事みくして右はとみけて
用事なりある定家の自筆のなりとこと
ら進り我國のせいめい伊斐依伊斐冊二り
の疎今とのいさけらと二の回答の因あり
日記よみたりかの二疎の唱和のい葉とよ
公よより事い言よのいしはまら二後と
いといふるい

三つあなと世いりる事

歌のいよりのあつらよあきい
いまはくみせのいりあち短のわと
いさけらとよいさけらとよいさけらと
いさけらとよいさけらとよいさけらと
いさけらとよいさけらとよいさけらと

よりだにちりり

いさだのめづりて下なるいかにくとてつるいさだ

あにやもあしする事なまたりしていさく平声

いさくもあてた家のむに女からくといはれよ

下下てぬいめめりみこのめり

右注よんじの事、日か次のオニ神代の下巻よ

そりト照姫とみ林の天稚彦の事、天と彦の

うせする事、いさくまにりしていさく

せしとみ林とト照姫の兄オニとありすまをい

孫の林とそり天とこの妻いんをい

孫の神のつて行くといはれぬくしてこのと

この名よりうりてしていさく下なる地い

いさく丈夫のよみりりいさくいさく

いさくいさくいさくいさくいさく

いさくいさくいさくいさくいさく

いさくいさく

いさくいさく

いさくいさくいさくいさくいさく

いさくいさくいさくいさくいさく

いさくいさくいさくいさくいさく

いさくいさくいさくいさくいさく

いさくいさくいさくいさくいさく

いさくいさくいさくいさくいさく

いさくいさくいさくいさくいさく

賦比興の制作の所は、のほろ、操くまの賦と云、
底の作民の百十のうま、うま、うま、うま、うま、
すの国の凡のうま、うま、うま、うま、うま、
凡といひ、うま、うま、うま、うま、うま、
雅、朝廷の樂と尊は、雅、用らる、うま、うま、
雅、小雅あり、次、頌、宗廟の樂、雅、の言、
よ、曲、うま、うま、うま、うま、うま、
み、の、に、の、うま、うま、うま、うま、
直叙其事、うま、うま、うま、うま、
と、うま、うま、うま、うま、うま、
い、
す、
の、
の、
の、

のま、うま、うま、うま、うま、
ら、
い、
す、
か、
具、
六、
中、
賦、
三、
比、

Handwritten text at the top of the right page.

Handwritten text on the right page, line 1.

Handwritten text on the right page, line 2.

Handwritten text on the right page, line 3.

Handwritten text on the right page, line 4.

Handwritten text on the right page, line 5.

Handwritten text on the right page, line 6.

Handwritten text on the right page, line 7.

Handwritten text on the right page, line 8.

Handwritten text on the right page, line 9.

Handwritten text on the right page, line 10.

Handwritten text on the right page, line 11.

Handwritten text on the right page, line 12.

Handwritten text on the right page, line 13.

Handwritten text on the right page, line 14.

Handwritten text on the right page, line 15.

Handwritten text on the right page, line 16.

Handwritten text on the right page, line 17.

Handwritten text on the right page, line 18.

Handwritten text on the right page, line 19.

Handwritten text on the right page, line 20.

Handwritten text on the right page, line 21.

Handwritten text on the right page, line 22.

Handwritten text on the right page, line 23.

Handwritten text at the top of the left page.

Handwritten text on the left page, line 1.

Handwritten text on the left page, line 2.

Handwritten text on the left page, line 3.

Handwritten text on the left page, line 4.

Handwritten text on the left page, line 5.

Handwritten text on the left page, line 6.

Handwritten text on the left page, line 7.

Handwritten text on the left page, line 8.

Handwritten text on the left page, line 9.

Handwritten text on the left page, line 10.

Handwritten text on the left page, line 11.

Handwritten text on the left page, line 12.

Handwritten text on the left page, line 13.

Handwritten text on the left page, line 14.

Handwritten text on the left page, line 15.

Handwritten text on the left page, line 16.

Handwritten text on the left page, line 17.

Handwritten text on the left page, line 18.

Handwritten text on the left page, line 19.

Handwritten text on the left page, line 20.

Handwritten text on the left page, line 21.

Handwritten text on the left page, line 22.

Handwritten text on the left page, line 23.

この事柄は、
Gammul 5 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

この事柄は、
Gammul 5 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

この事柄は、
Gammul 5 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

この事柄は、
Gammul 5 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

この事柄は、
Gammul 5 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

あ
あ
あ
あ

あ
あ
あ
あ

あ
あ
あ
あ

あ
あ
あ
あ

あ
あ
あ
あ

あ
あ
あ
あ

あ
あ
あ
あ

あ
あ
あ
あ

あ
あ
あ
あ

あ
あ
あ
あ

あ
あ
あ
あ

あ
あ
あ
あ

Handwritten text in cursive script, likely a list or account. The text is written vertically from right to left. It includes several lines of characters, some of which appear to be numbers or specific terms, though they are difficult to decipher due to the cursive style.

Handwritten text in cursive script, continuing the list or account. It features similar cursive characters and some numbers, maintaining the vertical orientation.

Handwritten text in cursive script, continuing the list or account. The characters are fluid and connected, typical of the style.

Handwritten text in cursive script, continuing the list or account. It shows a continuation of the vertical writing pattern.

Handwritten text in cursive script, continuing the list or account. It appears to be a shorter entry or a specific note.

Handwritten text in cursive script, continuing the list or account. The text is dense and follows the vertical flow.

Handwritten text in cursive script, continuing the list or account. It includes some characters that might be numbers or specific identifiers.

Handwritten text in cursive script, continuing the list or account. The script is consistent with the rest of the page.

Handwritten text in cursive script, continuing the list or account. It shows a continuation of the vertical writing pattern.

Handwritten text in cursive script, continuing the list or account. It includes some characters that might be numbers or specific identifiers.

Handwritten text in cursive script, continuing the list or account. It appears to be a shorter entry or a specific note.

おはるのころにうらやまのさきよきつねに

まじりてはなれぬ心よきとふれりてはなれぬ

あはれとてはなれぬ心よきとふれりてはなれぬ

あはれとてはなれぬ心よきとふれりてはなれぬ

あはれとてはなれぬ心よきとふれりてはなれぬ

あはれとてはなれぬ心よきとふれりてはなれぬ

あはれとてはなれぬ心よきとふれりてはなれぬ

あはれとてはなれぬ心よきとふれりてはなれぬ

あはれとてはなれぬ心よきとふれりてはなれぬ

あはれとてはなれぬ心よきとふれりてはなれぬ

あはれとてはなれぬ心よきとふれりてはなれぬ

あはれとてはなれぬ心よきとふれりてはなれぬ

あはれとてはなれぬ心よきとふれりてはなれぬ

あはれとてはなれぬ心よきとふれりてはなれぬ

あはれとてはなれぬ心よきとふれりてはなれぬ

あはれとてはなれぬ心よきとふれりてはなれぬ

あはれとてはなれぬ心よきとふれりてはなれぬ

あはれとてはなれぬ心よきとふれりてはなれぬ

あはれとてはなれぬ心よきとふれりてはなれぬ

あはれとてはなれぬ心よきとふれりてはなれぬ

あはれとてはなれぬ心よきとふれりてはなれぬ

あはれとてはなれぬ心よきとふれりてはなれぬ

家の為世の流は不孝の義と執もさうりのお
禁をうり入和泉或うまうさひした燃とらふ
しと果形さうえのひ里水よりりそいし不
割のめいれいすまの七とら同とらり又不三の
あい京極家のる無の冷泉家の為相はまも母妻
の院四系まとい不三の交と用よとの拘さうの
燃よようして人と意とくまゆるはさうの燃
人の思よりりしんくさよあおさうりのさぬ
とよ人のあさやじ。院のひさうり又吉極の
りさうりぬもあはひさうりさうりさうり
道とらひさうりぬもあはひさうりさうり
すさうりさうりぬもあはひさうりさうり

さうりぬもあはひさうりさうり
伏見院か
代よけ不三不割の事よけりる世なるま
初福の奏状ひさうり

まのめいれいすまの七とら同とらり

文武天皇のめいれいすまの七とら同とらり
高市郡 慶雲元
年よ平城よさうりぬもあはひさうり
えの天をさし不三平城
と部とさうりぬもあはひさうり
えにまの二やりに平
城のあひ人丸赤人の事とさうり文武天皇をさ
し家の子よ文武天皇を信とらり
下米凡抄むよ文武天皇のめいれいすまの七とら
たのめいれいすまの七とら同とらり
さうりぬもあはひさうり

序云この山僧喜梅其洞華嚴の首尾何許如
望秋月過院雲

は序よりよりの言にわくまこと孫とあるよとん
梅の首といひはらんまゝとあるまゝの集ひ
梅する時喜梅の秋とつり世の人長梅のまゝ
首のわりの秋とつり世の人長梅のまゝ
わくまこと孫の洞華嚴の首尾何許如
まゝのまゝもまゝ人の梅のまゝのまゝ
まゝのまゝもまゝ人の梅のまゝのまゝ
わくのまゝもまゝ人の梅のまゝのまゝ

とのこまめいよりのまゝのまゝ

序云小野小町に歌下衣通姫に流や然勢は氣

力如病婦と着花粉小野小町中羽田郡司女
兼和比人

衣通姫に先茶天女の女侍や日記上人より流の
まゝのまゝもまゝ人の梅のまゝのまゝ
大伴のららありとつれぬや

序云大友里直に秋衣通姫丈夫に次や頗有送興

衣通姫に如田夫に息花下秋衣通姫丈夫に次
大伴里直和比人

のほよいぬすつまのあめれたるうさすつと四
の時九なりよよしつらぬ。

醍醐天皇の寛平九年七月三日文祥の事あり

しり世長六年の九年の四の時と二年と二年
夏秋冬の一季の中よりのあぐらつらぬ

のいらつらぬとつらぬ

秋萩の自筆の「下米」の紙

とれりぬりにむらさき

にむらさきの秋とよし

又しつゝむらさきと君とたりし 祝ふ

げ。後しゆ年のなみゆくあふむ公に海をえん

秋萩の文章とてはまじりく 志す

秋萩の「下米」なるまじりゆくあふむ公に海をえん

かきそん後とてはまじりゆくあふむ公に海をえん

あふむ公に海をえん

お返の「下米」なるまじりゆくあふむ公に海をえん

ら下米の紙

是りの「下米」なるまじりゆくあふむ公に海をえん

とれりぬりにむらさき

よりの海をえん

の「下米」の紙

秋萩の「下米」なるまじりゆくあふむ公に海をえん

秋萩の「下米」なるまじりゆくあふむ公に海をえん

我々の「下米」なるまじりゆくあふむ公に海をえん

秋萩の「下米」なるまじりゆくあふむ公に海をえん

序云臣等前少春七、豊後、竊秋夜、長

まじりゆくあふむ公に海をえん

秋萩の「下米」なるまじりゆくあふむ公に海をえん

秋萩の「下米」なるまじりゆくあふむ公に海をえん

秋萩の「下米」なるまじりゆくあふむ公に海をえん

今まらうくすのよき道と教のしちまわりる

直名序云嗟乎人凡既没和教不在斯哉端緒

孔子の文王既没文不在茲乎この文勢と有りしけ

は詞まわり

あふりまかりとたしむ

果下の句にふる某のすまらぬ成りさくはるる(ま

もふりらるるののふんまよとんや

ふいぬいのすまを今びまらぬあひ

ましりて今某とつりゆり

古今和歌集卷第一

年の内は春はまた多かりいづこも昔年やぐん年次ん
一首の中はまじりてふ文字にありしことよみまじ
同公病とありしとむす所のす前塚の集し二連は
神ひらしてしすひ水がたねと春をさふ風やえん
けすふ三孝の公あり水とてしよの夏とこりるを
こましく自おの事ありいらしての病今やむす
るまじりてはむすはむすらむす

前太政大臣忠仁公良房公の事也

二条のまじりてはむすのまじりてはむす

二条のまじりてはむすの清和天皇の后陽成天皇の御母
陽成天皇の御母也

夏の御息所とてゆりし也

春の日の光あやみ我まじりてはむすのまじりてはむす

まじりてはむすのまじりてはむす

寛平の御時とてはむすのまじりてはむす

二条の七条后はむすのまじりてはむすの三女也

春日野のまじりてはむすのまじりてはむす

けし首の病ありてはむすのまじりてはむす

まじりてはむすのまじりてはむす

仁和のまじりてはむすのまじりてはむす

え名天皇に仁心天皇の御子と美和年中と四品親

とてゆりしはむすのまじりてはむす

我せしむるまじりてはむすのまじりてはむす

春文の波音と帯刀とみ減のつとと帯刀の振
すのちと津とよせ

ありはとりのふあいのちをいふあはすむさびり
桓武のつと平家成と部とつと進してのり平家の
中、ゆととあまのく大回天よのつとつとつとつと
雲林院のみこ 大田のちと常条歌とつとつとつとつと
仁和の中おのつとつと

え春天皇のつとを位のつとつとつとつとつとつと
平部下の女也

花所とつとつとつと

ちとつとつとつとつと

卷第三

三月にたつと郭公とつとつとつとつとつとつと
つとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
つとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
つとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

つとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
思つとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
つとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
つとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

つとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
つとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
つとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
つとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
つとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

あけのちのまはるるいづれもなほのちのち
秋のよやうにすまらぬ女良をばしつりて
かこふものあはしつりてしるくして極かすも秋
のいふやうにふかや

朱雀院のとみあつりあはせ

朱雀院の後院の若うてよの定平はなと
ひりのこまらげりりかあをよしよしと
あはれしてよしよかあをよしよと
平定文 貞應年よの貞文とつりてのちのち

巻第五

吹かす秋のまはるるいづれもなほのちのち
しつりてのちのちのちのちのちのちのち
はるるつりて秋のまはるるいづれもなほのちのち
風のまはるるいづれもなほのちのち

らもやうに秋のまはるるいづれもなほのちのち
しつりてのちのちのちのちのちのちのち
はるるつりて秋のまはるるいづれもなほのちのち
風のまはるるいづれもなほのちのち

菅原朝臣 延元元年正月廿五日た近太宰師 幸七

とりのめ 後津國はらの遊女涼者、女

とりのめ 後津國はらの遊女涼者、女

秋萩の花とてあはれしきものぞ

秋萩の花とてあはれしきものぞ

秋萩の花とてあはれしきものぞ

秋萩の花とてあはれしきものぞ

秋萩の花とてあはれしきものぞ

秋萩の花とてあはれしきものぞ

秋萩の花とてあはれしきものぞ

秋萩の花とてあはれしきものぞ

秋萩の花とてあはれしきものぞ

秋萩の花とてあはれしきものぞ

秋萩の花とてあはれしきものぞ

秋萩の花とてあはれしきものぞ

秋萩の花とてあはれしきものぞ

秋萩の花とてあはれしきものぞ

秋萩の花とてあはれしきものぞ

秋萩の花とてあはれしきものぞ

秋萩の花とてあはれしきものぞ

秋萩の花とてあはれしきものぞ

秋萩の花とてあはれしきものぞ

秋萩の花とてあはれしきものぞ

秋萩の花とてあはれしきものぞ

秋萩の花とてあはれしきものぞ

秋萩の花とてあはれしきものぞ

秋萩の花とてあはれしきものぞ

卷第九

あきのはらにさかすまのあき

あきのはらにさかすまのあき

小野宮流花の事、仁徳天皇承和五年、遣

唐使、上りまゝ、^十の如しのすゝめ、^十の如

く、^十の如しのすゝめ、^十の如しのすゝめ、^十の如

く、^十の如しのすゝめ、^十の如しのすゝめ、^十の如

く、^十の如しのすゝめ、^十の如しのすゝめ、^十の如

時之事

唐衣きけいひまじり一色うしの色いんかある花はたみ
けすいれむの折とていんかみまのりもけりむむり
しりしきまてしよびなせ

巻第十一

物名 よろはつもの名ときうのキ一れ入てま

お新

ういすとのこもてめく

けつとけくしめまてくひるういもていふおひり

うたと下のまといわくし業とあるふよまのり

々に 昔丹とくはふらよあるまのり

きりの 番薇や きちううのを 桔梗の花

ととよ 紫苑や ころんのを 龍膽の花

けよう 牽牛よいあいらのまにまをんけいこま

むとんあよりーとにせりあまにまてい

めふけつりいんかまてつら

めとく春や易利のたすのすし用りけりつをい

けりりいんまといふ

やまー 羊躑ヒツとく本まよい知母とふらとふらと

のんぬいふけいぬいぬい底は青のまよりのい

いふ又水若とくまてしつらていよじいま茶の類

百れ香 香のの香

Handwritten text in a cursive script, likely a page of a manuscript or a letter. The text is dense and fills most of the page.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. It includes a section header "巻第十一" (Volume 11) and a date "右降の辰巳の酉月" (Right side,辰巳, 酉月).

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. It includes a section header "巻第十一" (Volume 11) and a date "右降の辰巳の酉月" (Right side,辰巳, 酉月).

卷第十一

昔よりいふはまゝに 世も経るに 人の心も

よきと悪きと さまざまに 変わるなり

心よきと悪きと さまざまに 変わるなり

心よきと悪きと さまざまに 変わるなり

心よきと悪きと さまざまに 変わるなり

心よきと悪きと さまざまに 変わるなり

心よきと悪きと さまざまに 変わるなり

心よきと悪きと さまざまに 変わるなり

心よきと悪きと さまざまに 変わるなり

卷第十一

人の心よきと悪きと さまざまに 変わるなり

人の心よきと悪きと さまざまに 変わるなり

人の心よきと悪きと さまざまに 変わるなり

人の心よきと悪きと さまざまに 変わるなり

人の心よきと悪きと さまざまに 変わるなり

人の心よきと悪きと さまざまに 変わるなり

人の心よきと悪きと さまざまに 変わるなり

人の心よきと悪きと さまざまに 変わるなり

人の心よきと悪きと さまざまに 変わるなり

人の心よきと悪きと さまざまに 変わるなり

Handwritten text at the top of the left page.

卷第十一

Main body of handwritten text on the left page, consisting of several lines of cursive script.

Main body of handwritten text on the right page, continuing the cursive script from the left page.

長良のしりたぬ下二人の忠仁公良春昭宣公具隆
二建の忠仁公と前大政大臣と云ふ昭宣公境の
たぬたりありぬ故に下と辭して前と云ふに
あまのしりたぬ下二人の忠仁公良春昭宣公具隆

二建の忠仁公と前大政大臣と云ふ昭宣公境の
たぬたりありぬ故に下と辭して前と云ふに
あまのしりたぬ下二人の忠仁公良春昭宣公具隆

あまのしりたぬ下二人の忠仁公良春昭宣公具隆
あまのしりたぬ下二人の忠仁公良春昭宣公具隆
あまのしりたぬ下二人の忠仁公良春昭宣公具隆

あまのしりたぬ下二人の忠仁公良春昭宣公具隆
あまのしりたぬ下二人の忠仁公良春昭宣公具隆
あまのしりたぬ下二人の忠仁公良春昭宣公具隆

ふに黄鶴棧のしりたぬ下二人の忠仁公良春昭宣公具隆
黄鶴棧のしりたぬ下二人の忠仁公良春昭宣公具隆
黄鶴棧のしりたぬ下二人の忠仁公良春昭宣公具隆

あまのしりたぬ下二人の忠仁公良春昭宣公具隆
あまのしりたぬ下二人の忠仁公良春昭宣公具隆
あまのしりたぬ下二人の忠仁公良春昭宣公具隆

卷第十七

限あまのしりたぬ下二人の忠仁公良春昭宣公具隆
限あまのしりたぬ下二人の忠仁公良春昭宣公具隆
限あまのしりたぬ下二人の忠仁公良春昭宣公具隆

あまのしりたぬ下二人の忠仁公良春昭宣公具隆
あまのしりたぬ下二人の忠仁公良春昭宣公具隆
あまのしりたぬ下二人の忠仁公良春昭宣公具隆

あまのしりたぬ下二人の忠仁公良春昭宣公具隆
あまのしりたぬ下二人の忠仁公良春昭宣公具隆
あまのしりたぬ下二人の忠仁公良春昭宣公具隆

あまのしりたぬ下二人の忠仁公良春昭宣公具隆
あまのしりたぬ下二人の忠仁公良春昭宣公具隆
あまのしりたぬ下二人の忠仁公良春昭宣公具隆

母のふたごころから大なりいして

業平部下の母伊倉田歌をいふに

いふに

木のこころはこころのこころ

こころのこころはこころのこころ

こころのこころはこころのこころ

こころのこころはこころのこころ

巻が十一

文のこころはこころのこころ

こころのこころはこころのこころ

こころのこころはこころのこころ

こころのこころはこころのこころ

こころのこころはこころのこころ

こころのこころはこころのこころ

こころのこころはこころのこころ

こころのこころはこころのこころ

こころのこころはこころのこころ

りりりのたつた 随唐使のたつた

いふに

卷中十九

雜歌

長歌旋頭より示る所の折と報り也

よりの二進と三つていとよびつゝ風折と報るを
していとよびつゝ

短歌

け集の長歌の題目は短歌と貫之の書り

事大なる疑ぐり集集の長歌とよみは長歌と

いひて長歌の奥に廿一字歌とよみたりといふ

反歌といつたり又并短歌といはれりけ集

長歌の奥の中より史記長歌の奥に廿二字の反

歌三首ありと述べて三首なりといひし短歌といふ題

目としつゝやと述べて長歌といふといふ

一有の短歌といふ事やといふ所をいふより

又依如の千載集のなすはちたうの何といふ短

歌といふにわいといふ家といひて度までする所あり

といふ依如の古来凡所抄依賴に傳抄ありといふ

七歌い短歌と稱するの事といふはなれば

廿二字といふ短歌といふ事ありといふは短

歌といふ事隠義ありといふはなれば

いふは抄といふはしといふは短歌といふ事や

後人不知の故なり

意の歌のつゝ

是歌七首ありといふの二句と元合す事といふは

の五首といふは五首ありといふは七首といふは

七首といふは七首ありといふは七首といふは

七首といふは七首ありといふは七首といふは

詞の所ぎ
いふはし
なるはれ
んといふ
ゆゑ短歌と
いふはし

サニマニ對する... 短きもの

貫之長歌

昔に... 長歌... 必る... 報の歌

七と七峰長歌

今に野ら... 近東... 中重... 陣を... 九... 大... 七...

七条后 中玄温... 健母... 旋頭... 年... 旋... 思...

卷の聖朝之樂曲和歌の奧義とのそり故
定家の密勅といふ部の手す日月俱懸
鬼神兼與非短慮所及とて進より先賢の
くみしる末学のめらして業古より事
憚まきしものとてえ来智叡のいふこ
進とのとも月いりの廢忘とすすなふこ
おほまひのうた

おほまひの大直日とく由よとの并するとい
直といふ宿直の公にあり其すし用の衣とい直
衣とい宿直といつり中よ大直日とい極節
舎よこのかこさつる日群臣の宿直する事と

い極に聖武天皇天智十五年正月十六日大宴殿
お脚のりて舞妓と内覧のり 侍大寺の人
琴とりてこひりす

のりしま年のはめかしてえい今まはが反を
たのこつて日本紀よ三のころかあるに續日本
紀といつる書よれより事いづりゆせひは
てたひきまはれとつるに一説よこのこひ
いづりゆせひも日本紀の玩するまはれ
正玩といつて二月十のりよ百六脚勤文
内省よとてまはるのりよひきとけり
卯本の事いふと云玩のりよまはれとけり義
り樂とけりといふかるとお遠まらる

あるまじやまの舞のす

和年とよ舞の大和國よりおまよの舞にこれ
しりて秋まはかほきふとよあり正月の復鬼の
念大寄合の辰日の節合ホの日後舞と奏と
琴川奇人ホのり流社の奏しは舞とよよ春の
祭の日、神まらして舞とらうらむじりあ
祭とあし秋とくい仰りまの女にうめ
まし舞とあまのまよに長夜のうらうら
の秋まら

のよありに神にうらむの國よりおまの舞に
まよありとよまらうらまの代は猿樂まら
まら舞とくまらうらまら舞に風力

中よ十玉國の初めりままび鄭風衛風ま
つり漢和よ采菊の末とあまて流國の凡
俗の初とらうあまらる幸和の大寄所ま
取まら

水らまありにまらうれるおらまの舞に流
水らまら舞にまら國よりうらうら
まらまらまらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまらまらまら

神のまらまらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまらまらまら

こつと柏子よもくといはれ味未こ一越桐すも
催る末の桐子よ琴とまもく梅のよまのし
西のおうくましのすら帯よもくわもる川の若ぬやけ
仁の天をの大青舎の時悠紀の追江之具の備中
ここ連の備中の國より御贄とてまよりの時
るかのまのこつと御贄とてくまのり

美作やくめぬこつとくまのりこつとくまのり
こ連の清和天皇の大青舎の時之具の岡美作
りの御贄とてまもる秋くまのりこつとこれ秋
こつとくまのりこつとくまのり

みゆくに用のお川くすしてまよはるんこつとくまのり
こ連の湯が天皇の大青舎の時悠紀美は國の秋く

まよりの代のおまのりこつとくまのり
こつとくまのりこつとくまのり
のまのりこつとくまのり
こつとくまのりこつとくまのり
東秋 下のうたにみる東山東海道よりおまのり
まよりのあまのりこつとくまのり

みらのくつた
わつとくた
いらいこ
かいこ
伊勢こ

この秋のよれ國のよの口遊よりおまのり

寛平元年の元旦とてふことよまの公とのこと(き事)
お達りのこととて大赦可しとて(き事)
冬に賀茂の祭のつた

冬のお賀茂祭といはれは祭といふすれ遊藝と
らあることとて(き事)のつた(き事)とて(き事)
時にお賀茂の祭のつた(き事)とて(き事)とて(き事)
明神人よあつて(き事)とて(き事)とて(き事)
とて(き事)とて(き事)とて(き事)とて(き事)
あつて(き事)とて(き事)とて(き事)とて(き事)
ひと(き事)とて(き事)とて(き事)とて(き事)
せ(き事)とて(き事)とて(き事)とて(き事)
け(き事)とて(き事)とて(き事)とて(き事)

寛平元年十一月廿一日に酉の日はすまら
佛時の祭といふこととて(き事)とて(き事)
中(き事)とて(き事)とて(き事)とて(き事)
東遊の事といふこととて(き事)とて(き事)
て(き事)とて(き事)とて(き事)とて(き事)
延長の帝の勅といふこととて(き事)とて(き事)
あつて(き事)とて(き事)とて(き事)とて(き事)
茂の(き事)とて(き事)とて(き事)とて(き事)
女卷の終頭といふこととて(き事)とて(き事)
也(き事)

い(き事)とて(き事)とて(き事)とて(き事)
あ(き事)とて(き事)とて(き事)とて(き事)
あ(き事)とて(き事)とて(き事)とて(き事)

古今集之釋以相傳秘說今書
密勅倭素五抄漏脱事若也
堅可禁外見

桃華先人 町判

相傳一丁卷一主方本 考相傳秘相傳

世のまき 世のまきめをわらふてんまきいんまきいりまき
日の痛 五枚田番

相傳のまきいんまきいりまきいりまきいりまきいりまき
いんまきいりまきいりまきいりまきいりまきいりまき
いりまきいりまきいりまきいりまきいりまきいりまき

相傳のまきいんまきいりまきいりまきいりまきいりまき

相傳のまきいんまきいりまきいりまきいりまきいりまき

相傳のまきいんまきいりまきいりまきいりまきいりまき

相傳のまきいんまきいりまきいりまきいりまきいりまき

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a list of items. The text is written in a dark ink on aged paper. It begins with a large, stylized initial 'W' and continues with several lines of text. The script is dense and difficult to decipher without a key, but it appears to be a formal or semi-formal document. There are some larger, more decorative initials or words interspersed throughout the text.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a dark ink on aged paper. It begins with a large, stylized initial 'W' and continues with several lines of text. The script is dense and difficult to decipher without a key, but it appears to be a formal or semi-formal document. There are some larger, more decorative initials or words interspersed throughout the text.

のやち くらまのきんこり

置又書

用めり成書蓋し 若人入柳言お本置長行と

尋常令

又書

重置し成蓋又別又置有例代し中れつ各皆成蓋し

秋書様

一有可い三ひ三文字者抄し 及五六首の二行 三首以上三ひ

のそ抄りて

多振多きぬいり

月一 二教り

月二 抄り

月三 抄り

月四 抄り

月六 抄り

月六 用り

抄り 抄り

抄り

抄り

抄り

抄り

抄り

抄り

抄り

抄り

抄り

抄り

抄り

抄り

抄り

抄り

抄り

抄り

抄り

抄り

抄り後成恩と 福之殿下 抄り

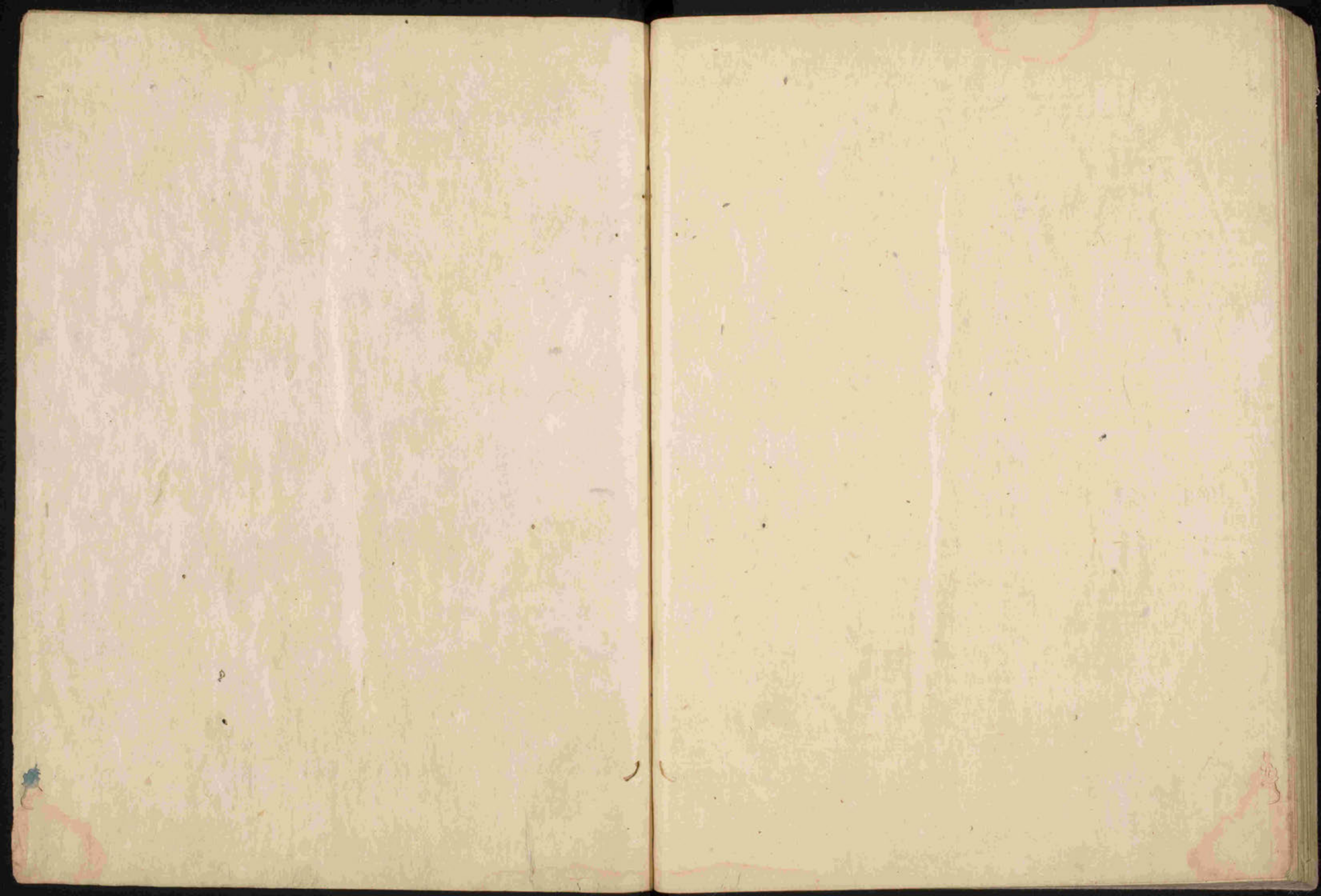
抄り抄り 抄り 抄り 抄り

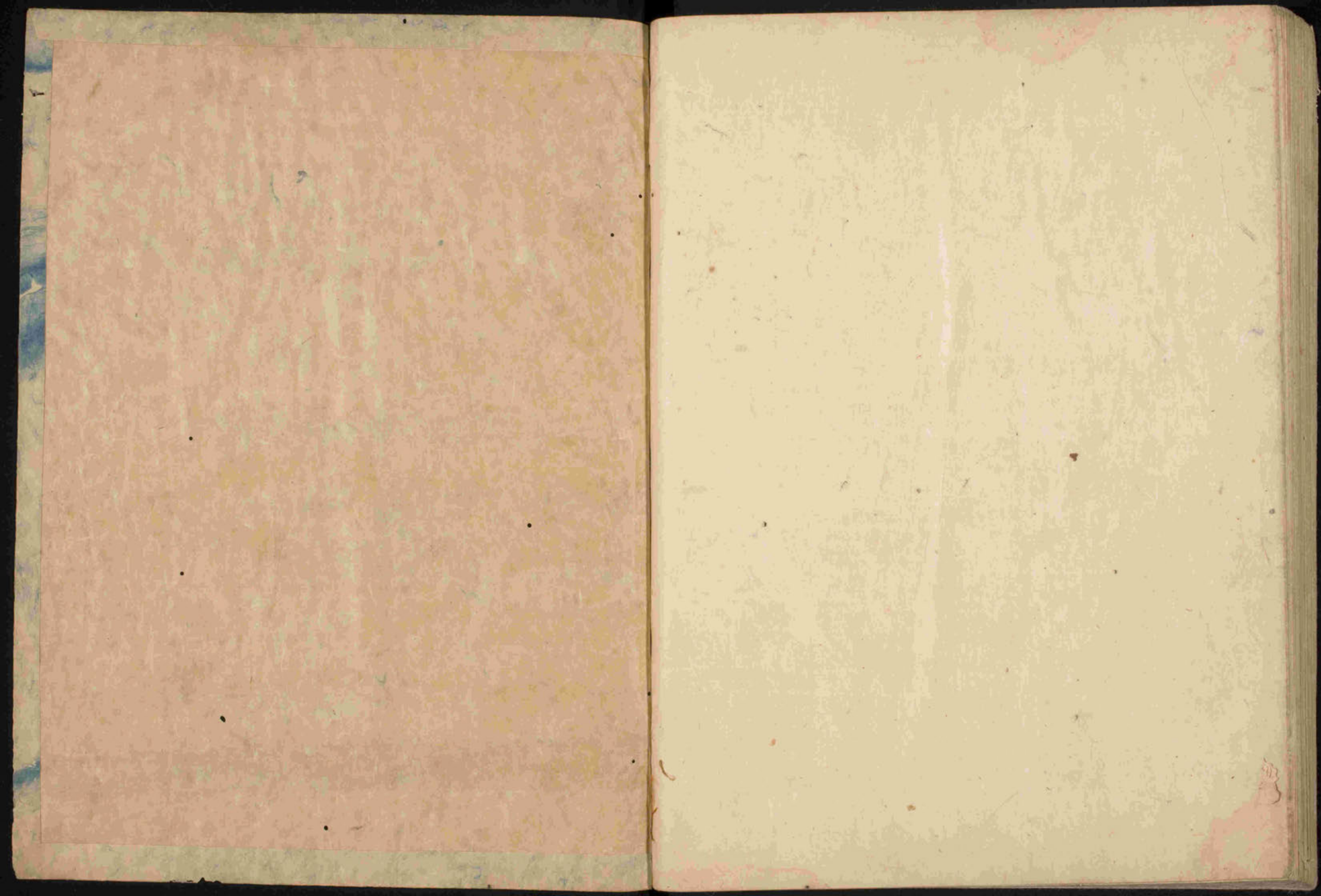
抄り抄り 抄り 抄り 抄り

抄り抄り 抄り 抄り 抄り

抄り抄り 抄り 抄り 抄り









110X
89
1